

戲曲證明

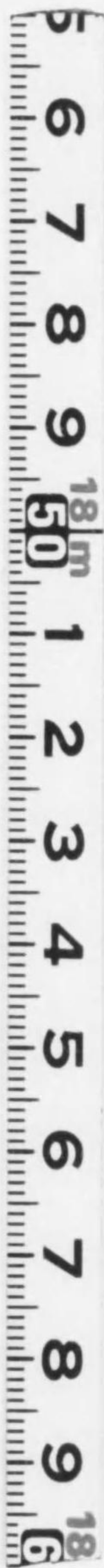
特 253

279

515

發行所
燈台社

38
17



始



戯曲「證明」(四)

エホバの證者 明石 順三

「汝等静まりて我の神たる
を知れ。我は汝の國の中
に崇められ、全能に崇めら
るべし」(詩篇四十六篇十節)

エホバは御自身の全能の神に在りて事を
天地全宇宙の被造物に知らしめ給ふ。此の
事實を承認する者のみが生命を得得る。此の
出来る。人間には此の明白なる事實を識
識することが甚だ困難であつた。人間の問
には被造物崇拜の本能が常にあつた。之は
無論悪魔の感化から来てゐる。此の狡猾
なる敵は欺瞞と阿諛の凡らゆる方策を
盡して人間に被造物崇拜を行はしめた。
悪魔自身も神エホバに敵して己を高くした。
とて彼の目的とする処は他の全被造物を
高くして、以て至上の神エホバに挑戦せしめん

とするにあら。自尊自大は其の者を破滅
に導く。イエスは此の事成就して斯く明示し
給ふた。「凡そ自ら高ぶる者は卑くされ、
自ら謙遜する者は高くせらるべし」(ルカ傳十
四章十二節)。

イエスは此の自尊自大の道とは全く正反対
の道を歩み給ふた。イエスは己自身を謙遜つ
て父の聖意に服従された。而して神は此の
イエスをエホバ御自身に次ぐ最高位に引き上
げ給ふた。何故にイエスは御自身を卑くさ
れたか。何故にイエスは己が精神と心
と力の全部を以て父エホバを愛し給ふたか
かうである。神はイスラエル人の前に斯く
示し給ふた。「汝心を盡し、精神を盡し、
力を盡して汝の神エホバを愛すべし」(申命
記六章五節。またイ傳廿三章廿七節)。エホバの示
し給へる此の方則を感受する者は極めて少
數にして、其の他の全部は「何故に神は此
の如きことを人間に命じ給ふたのか」と
不思議に思つてゐる。此の方則はエホバ御
自身の利益となるために非ずして、之は悪魔
の奸策から人間を保護するたために聲明され

たる聖言である。悪魔の決意は人類の全部を神にホバより離れせしめんとするにある。而して人間はとて唯一安全なる道は己が全部を以て至上者エホバに信服するにある。

エホバが今イスラエル人の前に此の方則の高調宣揚を開始されたる事実を注意せよ。エホバとの間に契約関係にあつた所の民の極めて少数者のみが此の方則を感受して、之に服従しやうと努めた。靈的イスラエルは肉体的イスラエルの経験せる記録を學び知ることによつて多くの光を受けた。此の占にみるも靈的イスラエルは此のエホバの方則に更なる大なる熱心を以て服従すべきであつた。然るに靈的イスラエルの多数は神の聖意をなすべく契約し、又神より聖靈を以て豊かに恵まれたるに拘らず此の方則に服従することは失敗した。

イスラエルの軍隊を指揮しつゝあつたヨシユアは此の方則に深く留意して常に之に服従したが、此の事に就ては後段に説明する。使徒時代以後今日に至るまでキリスト

ホバを認め識り、神の方則に一致して神に服従する者のみが永久に生きることとなるからである。エホバの聖名が問題とせられてゐる、といふ事を常に心に留め置かねばならぬ。神の聖名が全被造物の間には高く譽れられざる限り悪魔は神に對する彼の挑戦に勝利を得る事となる。悪魔は必ず敗北すべし。此の勝負に於て勝利は必ずエホバの側に歸することとなつてゐる。エホバの偉大なる聖名は證明されねばならぬ。之を即ち最初からのエホバの御目的であつた。エホバの御目的は必ず成就せらるべし。エホバの聖名の證明されることを妨害する事は出来ぬ。何故なれば之の完成は絶対の確實であるからである。最初より全部の事を知識し給ふ神は、御自身の聖名を高くして、之の最上なる御自身の事を證明するに最も適當なる善き時を豫定し置きて給ふ。エホバは其の契約の民イスラエルを用ひて、此の聖名證明の御目的を豫示する幾多の豫言的模圖を作成して置かれた。ヨシユアが重要な

イエスの追隨者を以て自称する者は絶えず此の方則に就て彼等の注意を喚起されるに拘らず、彼等の中の極めて少数者のみが此の方則を喜んで守つたに過ぎなかつた。而して此の方則は全く正反對の道を歩んだ者の絶好適例が即ち羅馬法王教權であつて、此の宗教制度の指導者等は神とその教會の僕であるを自稱しながら、其の實行爲に於て此の方則を全く無視して来たのである。此の宗教制度の教職者等は、彼等の最後の運命は當然永久の滅亡である。神は公平に在して、人間を偏重し給ふこと絶対になし。教會のゴリヤ期間を通じてヨシユアは、教會のゴリヤ期間を通じて、エホバの示し給へる此の方則を無視して来たが、彼等の對する最後の運命は、當然聖書の明示せる如くであつた。(マタイ傳廿四章四十一、五十二節)。

エホバの御目的は全被造物の間は御自身の聖名を高くし給ふにある。何故なれば、エ

る一役を演じた。此の豫言的戯曲は、エホバの聖名證明に關する御目的と、之の完成に際して採用し給ふ方法の何なるかを豫示するものであつた。神は地上に立つ受膏者と其の「伴侶」の益となるために今、此の豫言的戯曲の眞の意義を解明し給ふ。

エホバは大河ヨルダン河の激流を塞ぎ止めてイスラエルの大衆を以て乾ける河床を徒勞せしめ給ふた。之を即ちエホバの聖名に對する一の證言であつた。此の奇蹟はカナンの地に先住する敵、特にエリコの城内に在る者に甚大なる恐怖を興へたが、之は即ちちハルマゲドンの直前に神の聖名と御國に關する證言が全地に行はるゝ期間を通じて神が宗教家とその惡しき仲間の全部を以て恐怖戰慄せしめ給ふ事を豫示するものであつた。ヨルダンの彼方には居るアモリ人の諸王及び海邊に居るカナンの諸王はエホバがヨルダンの水をイスラエルの人々の前に乾し過らして我等を渉らせ給ひしと聞きイスラエルの人々の事によりてたましひ消え

心も心ならずざりき(ヨシヤ記五章一節) 此の時イスラエル人はヨルダンの西岸なるギルガルの陣營を張つた。エリコの人々はエホバが大ヨルダン河の激流を塞ぎ止めてイスラエルの大家を徒渉せしめられたる奇蹟を日撃した。此の事はアリコヨリの飛報によつて忽ち知れてカナン全土の人即ち地中海沿岸地方のペリシテ人、ツロとシドン其の他カナンの土地に先住する人々の知る所となり、彼等に絶大の恐怖を興へたに相違ない。ヨルダン西岸に配置されたる敵側の番兵は、イスラエルの軍隊がヨルダンの河床を徒渉し、大水壁が彼等の横に築き上げられたる事実をみるや傳令を飛ばして此の事実をカナン全土の王即ち支配権者たちへ急報した。之等諸王はエホバの示し給へる此の奇蹟の関する報告に接して、少くも暫くの間は恐怖に襲はれたに相違ない。此の豫言的戯曲の此の部分は明白に成就して、之の成就せる事は『遺れる者』(ロマ書十一)と『他の羊』即ち『大なる群衆』によつて

明らかかに諷解され、神はエホバと其の王キリスト・イエスを愛する彼等に大なる力附けを與へた。

戦線に在るエホバの忠信なる僕たちは一九二二年より以降聖書を説明せるエホバの配布を開始し、而して一九三二年の年即ち實體的「ヨルダン」の渡河を告了して神の受膏者が神の國の味態に入つた所に相當する此の年、神の國・全地の希望となる冊子が発行されて、キリスト國の代表分子の全部に配布された。神は之等の傳令即ち宣明者を用ひて此の世の宗教、政治、商業、軍部其の他は此の音信を傳達せしめ、之等現代の我利的支配権者の上に最後の到来せる事実の上は彼等の注意を喚起せしめ給ふた。之を實體的「ヨルダン」の渡河を終へて、今此の一九三一年には既に『約束の地』に立ち、エホバと其の王の聖名を宣揚して、キリストの支配下に成る神の國は、傾て此の世の我利的支配の全部を撃滅一掃し去るべ

キと目を勇敢に宣明することを示す通牒となつた。神の受膏者は至上者エホバの聖手によつて『新ら』(イザヤ書六十二)に『黙示録二』(七)を賜はりて今、エホバの遣はし給ふ僕即ち證者として信任され、従前倍せる大熱心を以て證言の仕事を専念精進した。エホバの聖名は今、従前に見ざる程に高く宣揚され始めたのである。神の民は戦のために武装した。而して之はその戦ひの開始であつた。

カナンの諸王は此の出来事のために甚大なる衝撃をうけた。その如く一九三一年には全地の諸國の支配権者即ち宗教、政治、商業、軍部の代表者に甚大なる衝撃を興へた。彼等の全部は恐怖戦慄した。此の年、此の世の宗教的分子の大首長なる羅馬法王は、全世界に對する祝福を放送したが、彼の此の祝福の祝福も何等の結実を見ず、彼の歸依者の中には恐怖が愈々増大するのみであつた。此の年、西班牙の人民は共和國を建設したが、之は羅馬法王の教權側に於て叛乱を起す都合よき口実

を喚へることとなつた。此の年、米國大統領は歐洲の混乱状態を理由として歐洲諸國に對する債權執行の上は支拂停止を聲明した。此の年、英國の労働内閣は崩壊し、又大英帝國は金貨本位制を廢棄した。此の年、日本は滿洲國を獨立せしめた。此の年、最初の世界軍縮會議が瑞西のゼネヴァに召集された。以上は即ち此の年に發生せる混乱事象の數種实例であつたが、之等諸事件に關してエホバの證者は全く無關係であつた。此の年、エホバは敵側を動員して、遙かの昔カナンの地に發生せる状態に匹敵する状態を再演せしめ給ふたのである。之等現代のカナンの諸王の混乱に加ふるに此の年、加奈陀政府は同國內に於てエホバの證者がラゲオを通じて神の國の宣明をなすことの上に大強圧を加へ、又、米國に於ける敵も之と同様の舉に出づべく共謀した。即ち之等の支配権者にとつてエホバの證者は全く恐怖の幻影となつたのである。而して此の傾向は爾後更に増大したのである。

神の國の制害

宛も此の時、イスラエル人は約束の地に在つたが、此の時、靈的イスラエルが主の御許に集められて神の國の状態に入らるれ、一體として忠義にして智き僕ら形成し、神の國の地的利害の全部をまもり一任されたることを豫表するのである。(マ多傳廿四章四十五-四十七節)。彼等は今日、神に對して全く信服し、エキリストの支配下に成る。神の國の利害を護るために全的に服従しなればならぬ。此の豫言的戯曲は此の全的帰順を豫示してゐる。即ち其の時アホバ、ヨシエアに言ひ給ひけるは、汝、石の小刀を作り重ねて又イスラエルの人々の割禮を行へと。(ヨシエア記五章二節)。此の時過越節が近づいてゐる。而して割禮を受ける者は一人も過越節に参加することを許されぬ。割禮復興の神命が下されたのである。即ち砂漠旅行の途中に生じた。若と未だ割禮を受けてゐない者に対して割禮が行はれるのである。埃及に於ては最初の過越節が行はれる前にイスラエルの男子に對して此の割

禮が一斉に行はれた。(埃及記十二、四十三、四十四、四十八)。民が約束の地に入り、而して其の地に於て最初の過越節を守る以前に、此の時までに割禮を受けた者なかつた者の全部は今割禮を受けよとの神命が下つたのである。之は割禮の再受の一斉舉行であつた。故に聖書は重ねてまた云つてゐるのである。此の割禮は神アホバに對する全的信服を再受してゐる。アホバは御自身の地上に有し給ふコ反に割らうべき名を與へて「アブラム」を「アブラハム」と改名せしめ給ひし時彼との間に割禮の契約を立て給ふ。(創世記十七、五-十四。ロマ書四、十一-十三)。アブラハムは神に對する信仰と服従との故によつて義人と認められた。故に彼は信仰によつて義人と認められた。彼は神に全的帰順をなした。而して此の事が即ち割禮によつて表れさしたものである。ヨルダンを渡河したイスラエル人は神に對する彼等の信仰を立證した。彼等は此の信仰と服従との故によつて今日神と神の國の利害のために全く信服してゐる。義人級を豫表したのである。而して割禮は此の事を表れさす

一の證據であつた。

神に服従する事によつて己が信仰を立證しつゝあるアホバの證者は、一九三一年に實體的「ヨルダン」の「渡河」を完了、神より「新らしき名」を授けられたが、此の新らしき名は今日此の世に於ても公然と承認されてゐる。彼等は此の「新らしき名」の意義の何なるかを知らずして使用する事となつたが、此の事は即ち忠信なる「遺残者」の上の實體的「割禮」が行はれたる事を表れさすものであつて、此の割禮は心即ち精神の上に行はれたる靈的のものである。(ロマ書二、廿九。ヒリ。上三章三節。コロサイ書二、十二)。其の時「遺残者」はアホバとの間に「忠誠の契約」を有した。此の「忠誠の契約」は神の國のための契約であつて、即ち彼等は神の國の爲に全的帰順をなさなげしむべきことを示す所のそれである。アホバは契約を守るに當り忠實を在し給ふ。而して神の國の全利害を委ねられたる者等は最後の至るまで此の契約に忠實でなければならぬ。然らざる限りアホバの聖宇に永遠の祝福を受ける事は出来

ないものである。汝が知るべし。汝の神アホバは神に在りし、眞實の神に在りして、之を愛し、その神命を守る者は、契約を保ち、恩恵を施して千代に至り給ふ。(申命記七、九)。然らば神の國に對する契約の中にある者に対して如何なる事が要求されるか。彼等は神を愛して、其の神命を守らなければならぬ。契約を嚴守し給ふアホバ御自身の忠實と、此の神の國に對する契約の中に入る者等の忠實によつてアホバの聖名は證明されるのである。神の御豫定の時到来に及びて心直き人々は、アホバ御自身の契約に嚴守し忠實に在りし事を仰ぎ見えてアホバを崇拝する事と行つてゐる。(イザヤ書四十九、七)。神の國の列の中に在りし者ら最後の至るまで忠信ならざる者は當然脱落して滅亡するのである。神に對する忠信を持続し、死に至るまで愛と忠誠を立證する者のみが「生」の冠を受けることとなる。(黙示録二、十)。神の國への列の中に在る者は何れも「我聖」ければ、彼等も聖くされし。(ペテロ前書一、十五、十六。レビ一、四十四)

の氣持ちを絶やさない。エホバは正義に對して絶対忠実に在し給ふ。その如く神の國への列の中在る者は皆、神の國によつて顯示さる。正義に對して絶対服従しなればならぬ。

イスラエルの人々はモアブの平原に集まつて、神の僕モーセから訓示を受けた。(申命記一、三、五、廿九、一)。此の事はイスラエルがカナンの地に入る二ヶ月以前に起きたが、此の時モーセはエホバに對して信服する事の絶対必要なるを力説して斯う言つた。此の事は洗等心に割禮を行へ。垂れて頂を強くする勿れ。(申命記十、十六)。若し肉體的イスラエルが神の律法に全的に服従し、またその服従は愛に基く無私的信服であつたらば、彼等はその頂を強くするに必要はなかつた筈である。モーセはイスラエル人に告げて神は彼等を約束の地に携へ入り給ふと示したが、然しそれには彼等がエホバの神命に服従する事を條件としたのである。エホバの神はエホバ、汝をしてその先祖の存ちし地の歸らしめ給ふて、汝また之を有つて至

らん。エホバ又汝を善くし、汝を増して、汝の先祖よりも多からしめ給はん。而して汝の神エホバ、汝の心と汝の子等の心(精神)に割禮を施し、汝をして心を盡し、精神も盡して汝の神エホバを愛せしめ、斯くして汝に生命を得させ給ふべし。(申命記一、五、六)。「精神の割禮」とは何を意味するか。之は即ち神の國に對して全的に信服せんとすることを邪魔する所の総ゆるものを切り除くことである。精神は忠信者の勳徳即ち愛の基座である。神を愛するといふ事は、神エホバと其の王キリストの支配下に成る神の國に無私的信服をなす事を意味す。神の國に對する無私的信服とは、神の國のため己自身の一部を無條件で獻げることの意味す。此の事はイスラエル人がカナンの地に入った時一斉に行つた肉體的割禮によつて表徴されてゐる。

此の世より全く離れ、此の世と仕働することとは許されなかつた。(申命記十三、廿九、一)。羅馬書十二、二。ヤコブ書一、廿七)。人は悪魔の組織制度の如何なる部分とも混じつ、同時に全能の神エホバを聖く止しく禮拜することは絶対に不可能である。サタンの組織制度との間には不義の關係を有すること。断じて許されない。(申命記廿三、十三、一)。此の世と仕働する事は絶対に禁物である。此の故に神の契約の民に屬する者は己が故のため他人物、器物等如何なるものにも對しても絶対に依頼せず、又之を崇敬禮拜することをなすべきである。神の契約の民の各員は如何なる苦難にも屈すること無く、唯神の國のみに絶対服従するのである。(申命記七、一、五、十、一、三)。彼等は此の世の如何なる者にも頼まず、唯神エホバと其の御國のみに信頼し、之に絶対服従をなす。(申命記十五、六)。此の理由によつて神エホバの聖意をなすべく神と契約せる者等は如何なる形式に於ても神エホバとキリストイエス以外の者に禮拜すること

拒絶する。何故なれば神とキリストイエス以外の者に禮拜を捧ぐることにはエホバの律法に違反する行為であるからである。而して此の事をなさざるが故に當然彼等の上は嘯む此の世よりの刑罰や苦痛を彼等は絶対に意に伏しない。神の受膏者たちは神エホバに對して彼等の忠誠と貞節を固守す。即ち彼等は断えず神エホバのみを讃頌するのであつて、之がために如何なる誹謗と苦難が来やうとも彼等は喜んで之を甘受するのである。(申命記廿九、廿四、一、廿八)。神の契約の民は彼等のため備へられたる神よりの靈的食物のみによつて養はる。(申命記十四、一、二)。彼等は機會ある毎に全ての人々に善をなし、特にエホバを愛して神に奉仕する者等のためは殊に此の事をなす。(申命記廿二、一、八。ガラテヤ書六、十)。彼等は己等自身の手を顧みる事なく、唯神エホバの栄光と尊貴のためのみ己が最善を盡す。(申命記廿二、五、一、二)。彼等の間に完全なる一致が保たれる。彼等は己等の手に一任される神の

國の地的利害の全部を忠実に守護して、一意之の進退のみを専念す。彼等が之として神の國のみが全部である。何故を以て神の國はエホバの聖名を崇めて、之を證明するために用ひらるる方法であるからである。彼等は此の事をなすに神と御國に對する愛即ち無私的信仰を以てなし、之によつて神に對する己が忠信と貞節とを立證す。之を即ち「精神の割禮」によつて象徴せらるる所のそれである。

ヨシニアは此の豫言的戯曲の進展を曲へた指揮した。ヨシニア即ち石の小刀を作り、陽物山にてイスラエルの人々に割禮を行へり、ヨシニアは第三節。此の陽物山とある此の場所は、田舎子の生殖器の切り取りたる皮の堆積せられたる場所の出現せるを意味するものにして、之はイスラエル人が認められたる事と、彼等が此の地の民から全く區別せられたる事に對しての證據となつた。彼等は今後多年に亘つて無割禮にして不潔なる惡魔の禮拜の力ナン人と戦ふために準備されたのである。其の如く此の豫言的模圖

は一九三二年以降その成就を示した。

此の部分の豫言の成就に於て、之は一九三一年神の民の「新うき名」が呼べられた時より後の成就たる事を示してゐる。之より暫くして後、全地の神の民は喜んで神より興へられたる此の「新うき名」を感ぜし。一九三二年十月十五日発行の「ワツタワ」誌は従来「編輯委員会」を解消し、教會を教ふる教師は人間に非ずして神とエホバと主イエスキリストのみなる事を明らかにし、此の旨を公に聲明した。此の事は或る人々に對して非常なる苦痛を興へ、その苦痛は容易に癒えなかつた。一九三二年十一月一日発行の「ワツタワ」誌は「神に教へらるる者」の題下に於て、神の民を教ふる者は神とエホバと主イエスのみにして、人間に非ざる事を明白になした。正しき精神状態のある者は之によつて直ちに其の痛みから解放された。然し自衛を自らに陥つてゐる何の所謂「被選挙長老」の連中は容易にその痛みを癒すことが出来なかつた。一九三二年八月十五日及び九月一日発行の「ワ

ツタワ」は「エホバの組織制度」なる題下に於て「被選挙長老」即ち會衆の投票を「被選挙長老」の職制は人間所産のものなるが故に之は即刻廃止せられたらねばならぬことを明らかにした。一九三二年十月十五日発行の「ワツタワ」誌は「聖所は潔められり」(ダニエル書八十四)の豫言の成就として、エホバの民によつて正式に表明された。其の結末は神の組織制度の内部を潔め、敵に對する「證言」の武装を完備することとなつた。「精神の割禮」を受けたる者即ち神とエホバに全的信仰をなせる者のみが彼等の前に置かれたる「證言」戦場に喜び勇んで進み入つた。

死にをりしが、其の出で未し民は皆割禮を受けたる者なりき。然れど埃及を出でし後、遂に荒野に生れし民には皆割禮を施さざりき。抑タイスラエルの子弟は四十年の間荒野を歩み居りて、遂に其の埃及より出で未し民即ち軍人等悉く亡せ果たり。これエホバの聲に聽き従はざりしに因りてなり。是を以てエホバ、彼等の先祖たちを以て我等に興へんと宣ひし地を我々と密の流る、地を之に見せしと誓ひ給へり。彼等に繼ぎて興へしめ給ひし其の子等はヨシニア割禮を行へり。彼等は遂に割禮を施さざりしに對して割禮をなす者なりければ「ヨシニア記五章四七節」。

之の成就に就て見ると、一八七八年より以後、主イエスが神の宮に臨み給へる一九一八年、更に續いて一九三二年までの間に多數の者が神とエホバと神の國に帰順するに就きたが、然し之等の中には「精神の割禮」無き者例へばかの「被選挙長老」や其の他宗教行爲に囚はれてゐる者等が

従来キリストイエスの追随者を以て自任する者の動機は常に己自身の救を中心とする我利的のものであつた。此の事は又、此の豫言的戯曲によつても豫示されてゐる。ヨシニアが割禮を行はしめば之より埃及より出で来りし民の中の一の男即ち軍人は皆埃及を出でし後、遂に荒野に

多數にあつた。神の「聖所」級は此の種不潔なる状態より全く潔められなければならなかつた。(ダニエル書八、十四)。而して「無知」であつたとか、「無邪氣」であつたとかは、爾後宗教行爲を続ける者に対する責任回避の口実や理由にはならなくなつた。「ヨシユア」よりも大なる「キリスト・イエス」によつて行はれたる此の「精神の割禮」を受くることを拒絶せる者等は、神の國への列の中から集めて除き去らるのであつた。一九三一年以後發生せる各種の「證據」は此の豫言と全く一致符号してゐる。

肉体的イスラエルが割禮を受けて起居不自由なりし間を通じて神は彼等を守全に保護し給ふた。イスラエルが此の割禮によつて痛み苦しんでゐる最中に若しエリコに圍城する敵が襲撃して来たならばそれはイスラエルにとつて由々しき大事であつた。然しエホバはイスラエルの忠誠を嘉納して彼等を守護し、その痛みの去るまで、エリコの敵を大なる恐怖の裡に城内に取り籠め給ひ、此の期間を通じてエリコの

軍人たちは全く無活動の有様にあつた。「ヨシユア記六章一節」。之と同様に埃及に於てイスラエルが一斉に割禮を受けた時はエホバは三日間埃及人の上に「暗黒の災禍」を興へてイスラエル人を保護し給ふた。(出埃及記十、廿一、廿三)。此の豫言的戯曲の此の部分の成就に於て此の時、献身者の上の一の痛ましき試練が臨んだ。而して「精神の割禮」を自ら進んで受けたる者等の上には此の苦痛が特に強かつた。神は全く「信服せる者等」は此の「精神の割禮」の手術を喜んで受け、己等がエホバの證者として苦しみ得る特權に參與せる事を感じ謝してゐる時、一方に於て「被選舉長老」たちや宗教行爲者等は、此の「主」の下に居る事柄は餘りにも強すぎた。

ギルガルはカナンの地に入つたイスラエル人が初めに陣營を張つた場所の名である。此の「ギルガル」の名は「圓」といふ意義を有す。円形に積まれたる十二の石(「ヨシユア記四章廿一、廿四節」)はエホバの聖名に對して行はれる無終無端、無限の證言を暗示してゐる。

此のギルガルの名は又「轉ばす」といふことを意味してゐるが、之も全土前の「圓」と全様の重大意義がある。當時エホバ「ヨシユア」に向ひて、我々今日、埃及の恥辱を汝等の上より轉ばし去れりと宣へり。且て其の地の名を「エリコ」まで「ギルガル(轉ばす)」と稱ふ(「ヨシユア記五章九節」。此の名は「カナン」にとつては、單なる一の名に過ぎないが、然し、神の契約の民にとつては、神が「埃及の恥辱」を汝等の上より轉ばし去れりと宣へる如く、彼等の上には新らき名が授けられ、従来「埃及」即ち此の世で受けてゐる誹謗から脱し得る時に到達したる事を意味してゐる。之の成就は就てみると即ち此の如くなつてゐる。

一九三二年以前に於ては、現代的「埃及人」や現代的「ペリシテ人」即ち此の世の宗教家と其の仲間たちはエホバの中心信なる民を「無名の宗徒」として之を嘲笑侮辱し、之を「ラツセル」とか、「千年期の嚙派」とか、「第二の機會派」とか其の他凡ゆる名稱で呼んだ。彼等は故人のラツセル兄の追隨者で

あると思惟され、ラツセルと呼ぶ故人の指導者のみに栄光を歸する者であると評判された。然し此の事には相當の理由があつた。何故なれば當時神の契約の民の間には一般宗教の中に行はれる如く、人間を崇拜し、人間を高く評價し、人間に光榮と尊貴を歸せんとする宗教行爲に執着する者が多かつたからである。神の民は此の宗教行爲の宗教的気分の中からは離脱しなけれならぬ。エホバの忠信なる民は、神が何時、何処で此の「埃及の恥辱」を彼等の上より轉ばし去り給ひしのを明らかに知ることが出来る。之は神御自身の聖名の栄光のために行ひ給ふたのである。一九三二年七月に開催された神の民の會議が即ち此の時と所とであつた。此の時、其の會議に於て神は初めて「新らき名」の意義を神の民の前に解明し給ふた。敵は未だに神の民を「自称エホバの證者」と嘲笑的に呼んでゐる。然し彼等は此の事を少しも音に察しない。何故なれば彼等は之がエホバよ

り受けたる名稱である事を知つて、喜んで此の名稱を負ふてゐるからである。彼等は神アホバと其の王キリスト並びに神の國に對する「我等の關係の何であるかを知り、神の國の既に到来せる事を知り、彼等が約束の御國の中に既に入つたことを知る。彼等は現代的埃及の諸權を以て「上にあつて權を有する者」(ロマ書十三ノ二)とは「聖書」に認めない。彼等は神アホバと主イエスキリストのみが「上」にありて權を有する者である事を知らず。此の故に唯アホバとキリストとイエスのみに服従することゝをなすのである。宗教改革家は、アホバの證者が神の國の到来せる事を宣明し、己等が神の國の利害を一切に「上」にある者なることを聲明するを聽いて之を「揶揄嘲笑す。然し事實は此の事の絶対確實なることを明らかに立證してゐる。此の故にアホバの證者は神の聖名を侮辱し誹謗する之等宗教改革より来る誹謗や嘲笑を少しも意にみしないのである。」

過越節

イスラエル人は埃及に於て最初の過越節を守つたが、此の時が即ち「律法の契約」の開始であつて、此の最初の過越節の時から丁度四十年を経過した。ヨイスラエルの人々ギルガルの營を張り、その月の十四日の晩、エリコの平原にて過越節を行へり(ヨシヤ記五章十節)。

彼等は「アテ、ニサン」の月の十四日の此の日、約束の地にありて彼等の最初の過越節を守つた。敵の立て籠るエリコの城は目前にあり、イスラエルは何時敵より襲撃を加へらるるかも知れぬ形勢にありたが、然し斯かる事は彼等をして「記念」の意義を學び、又之を看過無視せしむる「實や理由」とはならなかつた。彼等は過越節を正確なる時に守つた。最初の過越節以後三十九年も経過し、又此の約束の地に於ける最初の過越節の事であるから之は彼等にとつて眞の歡喜であつたに相違ない。彼等は神アホバを喜ぶの歡喜を有した。何故なら彼等はアホバの神命に服従したからである。此の部分

の成就として如何なる實證が發生せるかに就て注意せよ。『新ラキ名』を共へられてより後間もなく神の民は一九三二年二月十五日発行の「ワツタタワー」誌を通じて「主の歡喜」の題下に、「主の歡喜」とは「アホバの聖名の證明であるべき時が到来した事を知るの歡喜である」とを教示された。之は即ち「アホバの聖名を證明し給ふ主イエスキリストが愈々敵に對して行動を自地し、父の聖名を證明し給ふ時となつた歡喜を意味す。受膏者は「大從前の如く」毎年一回止規の時に主イエスの「記念」を守るべき事と、之は悲歎の裡に守るに非ずして此の「主の歡喜」の中は歡喜を以て守らるべきことが證明された。之に一致して、主イエスの死の「記念」を有意味に守るために其の年の「記念」の日(一九三三年三月廿日)より向ふ一週に於て世界的「大証言期間」として定められ、「世界其他諸國」に「命命」を命じられた。而して之は「大証言」のこととの「記念」即ち他の「主」級の者にとつて實に大なる歡喜の時であつた。「ワツタタワー」誌は此の「主の記念」に就て更に斯う記した。

「神の國の證言。神の民は此の世の諸國の制定せる祝祭日とは絶対無關係である。神の模範的選民は毎年二つの期間を守つて祝つた。其の二つは春、他は秋の本節を守られた。之等兩種の期間に於て「アホバに聖し」とされてゐた。

(エズラ書六ノ九、一〇、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇) 此の理由によつて十月一日より九月までの九日間は「神の國證言期間」と命名された。各地にある神

の民の部隊は其の神の金曜日より奉仕
會議を開きて、證言活動に對する準備
を怠げ、而して九日間の全期間を通じて
證言の本仕に獻げ、神アホバに對する感
謝と讃頌の期間をらしめ、榮ある神の
國到來に對する大祝宴ならしめよ。此の
期間を通じてアホバの證者の各員は、此
の證言に参加してアホバと其の御國を讃
頌し、「聞ゆる耳」の所有者に向つて神の國
の福音を傳達して、「王國の果」を結べし（二
九三二年二月十五日）発行「ワツチタワ」第五
七頁）。

其の次に發行されたる一九三二年十月
一九九日の世史的六證言は「神の國證言
期間」と命名された。之は「神の國證言
期間」の中間に「Vindication」（證明）の
第二、第三巻が続いて發行されて、既に
發行済の第一巻に續いた。此の第二、第三
の兩巻には、聖書の中古くより記録され
ある種々の豫言即ち從末クリスチヤンや
聖書學者が主として「肉體的イスラエル人」
即ち猶太人の上ののみ適用してゐたるそ

れは、事實に於て「靈的イスラエル」即ち「ア
ホバの證者」即ち神の受膏者に適用する
べきものである事と、之は彼等が悪魔の
組織制度から救ひ出されて、神の國の奉仕
の中に携へ入れられる事、而して此の事は
特に一九三一年以後に於て殊に然りである
事が明らかとされた。神アホバと其の王キ
リストの御許可によつて準備され、發行さ
れたる之等兩巻の書物は此の時にアホバ
の證者が實體的「ヨルダン」を渡河して、
「約束の地」に既に進み入つた事を説明し
た。それより間もなく後、神アホバは「新
約」の意義を説明して、此の「新約」は從
未誤信されたる如く「肉體的イスラエル」と
の間で作成されるもの非ずして、之は「靈
的イスラエル」即ちアホバの證者との間に作成
されるものである事を教示して神の民に
其大なる歡喜を與へ給ふた。此の事に關す
る更に詳細なる説明は一九三四年四月よ
り七月までの「ワツチタワ」誌及び同年
中に發行されたる「Jehovah」と題す
る書物の中に發表された。

イスラエル人がカナンの地に入つて後四
日間神は天よりマナを降してイスラエル人
を養ひ給ふた。彼等はニサンの月の十四日
に過越節を守つたが、其の翌日は他の食
物を以て養はれた。而して過越節の翌日
その地の穀物、醗入れぬパン及び燂麥を
其の日に食むけるが……（ヨシヤ記五章
十一節）。

此處に「燂麥」と訓あるへル語原
字では「炒つた玉蜀黍」となつてゐる。此
の時玉蜀黍は丁度収穫した時で未熟な
のも交つてゐたから、炒つて使用することにな
つてゐたのである。此の豫言の成就として
一九三二年以前に於ける神の民は、一九一八
年以前の發表されたる教を大部分とし
てその山の上に養はれてゐたが、之は其の
舊式の食物であつた。既に故人となつた一
人の人が死の直前に「綿織を賣合」を任
命し置き、「ワツチタワ」誌に「綿織を賣合」
さるべき事を「神」が指定し置いたのである。
神の民の間には從末の教から離れる事を嫌
忌する氣持が多く見えれたが、此の事は即

ち全的獻身者の間にも未だ宗教的氣分
が残存してゐた事を明示してゐるのであ
つた。「被選擧長老」は引續いて神の民の
間に「説教」を行ひ、神の民が象徴的「ヨ
ルダン」を渡つた後、不口、その翌日の一九三
二年までも此の「説教」を継続し、「ワツチ
タワ」誌（一九三二年八月十五日及び九月一日發行）
上に「アホバの組織制度」と題する記事
が發表される時までには及んだ。此の時以
前は於て「聖書」の中の豫言は凡て肉體的
イスラエル人即ち猶太人の上のみ適用され
て正しき神の國の食物は隔されてゐた。ア
ホバは「イスラエル」に與へらるべき「應急
的」食物であつた。此の故に一九三二年以前
に教へられたる所は靈的イスラエルに對する
「應急的」食物は過ぎなかつたのである。
此の時「カナンの地」に入る道路となつ
てゐる「ヨルダン」の平原は、アブラハムの時代
の如く「甚だ荒涼」の地であつたに相違な
い。「アホバ」ソドムとゴモラとを滅ぼし給は
ざりし前より「ザアル」に至るまで皆
ぬく善く潤澤して、アホバの國の如く、埃

及の地の細くなりきり(創世記三十三)。イスラエル人は此の地に入ると共に地に生じぬたる穀物を取つて己等の食糧に供した。ヨその地の穀物を食ひし其の翌日よりしてマナの降ること止めて、イスラエルの人々奮てマナを得たりき。其の年ハカナン地の産出物を食へり(ヨシユア記五章十二節)。

砂漠に於ける四十日間の旅を通じてマナの意義は肉体的イスラエルの上のみに適用された。然しイスラエルの聖言(ヨハネ傳六、世一五十八)は此の實體的「マナ」は靈性的イスラエルの上のみに適用されるべき事を明示した。而して之は「大なる群衆」を形成する。他の羊に級の者の上にも適用されるのである。此の故に主が「他の羊」即ち地の善意者を往來する事成就の解明をその民に與へ給ふ時至るに及びて「マナ」即ち應急的臨時の靈的食糧は中止され、其の代りに堅固なる「眞理」の食糧が與へられることとなつた。一九三二年、主がその「葡萄園」に働く其の僕に「銀一枚」宛を「支拂はれたる」時(マタイ傳廿一、十六)、而して

神の國の「労働者」が念々神の國の中に働くこととなつた時に、神はその豫言的戯曲の幕を解明し始められた。

之に一致して、地の善意者の集會は一九三一年六月英國倫敦に開催された會議と、同年七月米國ワシントンに開催された會議に於て始めて神の民の前に明らかとなつた。而して此の事は一九三三年七月「ワッチタワー」誌を通じて發表された「アエウとヨナダブ」に關する豫言的戯曲の解明によつて更に明白となつた。斯くして、神の御豫定の時到来に及びて「マホバ」の證者は「神の國の果」の靈的食糧を以て腹次神に於て豊かに養育されることとなつたのであつて、之等の「食糧」は一九一八年以前、又はそれより暫く後は食卓上に供へられたる食糧とは全く類と質とを異にするものであつた。四十日間互つて神の民の食卓上に供せられたる應急的臨時の「食糧」は中止され、神は「時」及び「食物」を以て神の民を養ひ始められたのである。此の故に神の契約の民と其の責務及び地の善意者に關する神の國の眞理は「時」に及

びての食糧として開始したのである。エホバはその御約束の如く「神の忠信なる證者」のため、敵の前に大祝宴を準備されたのである。(詩篇廿三篇五節)。

訓 二小

エホバはモーセを通じて、エリコの包圍と攻略に關する一般的指示を與へ(申命記廿一、六、七)て置かれたが、然し今ヨシユアを以て演ぜらるる、此の豫言的戯曲に於て神はエリコに關して或る特殊の命令を與へ給ふた。エリコ城包圍は「今」開始されんとす。而してエホバは今如何にして之を奪取すべきかに就て特別の指示をヨシユアに與へ給ふ。ヨシユア、エリコの逆りにはありける時、目を擧げて見しは、一個の人、劔を手に抜き持ちて、己に向ひて立ち居ければ、ヨシユア即ち其の許に行きて之に言ふ。汝は汝等を助くらるか、將われ等の敵を助くらるか(ヨシユア記五、十三)。

大なる好意を示し、そのために彼女を救援するの契約が成された事等が就て考慮し、如何にして彼女を救援して此の約束を果さうかと研究してゐたに相違ない。彼の心は敵城包圍の「占」に集中されてゐた。ヨシユアは多くの場合「主」の「體」の成員として、此の場合彼は「キリスト」の「體」の成員の地上にある者即ち神の國の地的全利害を一任されたる「邊境者」を特に豫表したものである。彼はエリコ城包圍に就て考へてゐた。

此の豫言的戯曲の此の部分の成就として、地上にある神の僕の注意は敵に對する戰鬥即ち「全能の神の大なる日の戰」を以て決定される所のそれの上の集中されてある事を示す。一九三二年の末より一九三三年の春までの「ワッチタワー」誌の記事は「ハルマゲドン」に對する戰備の点に就て特に力説し、又一九三三年の秋には「Preparation」(戰備)と題する一書が發行された。其の頃「神の國」に避難せよ」と題する冊子の配布が開始された。一九三三年の春「平和と幸福に關する聖年の初見」と題する講演がエホバの

證者によつて五十五の放送局を通じて中継放送されたが、之は羅馬馬法工が一九三三年を以て所謂「聖年」と聲明し、全地に平和と幸福を到来せしむべしとて、此の世の政治家等と共に馬鹿げたお芝居騒ぎを演じた事に對する應答として行はれたる講演であつた。此の一九三三年の年はエホバの證者にとつて危険なる一期間であつた。そして彼等は其の前途に多くの困難を豫測した。彼等は止しき道を歩むことを得んがために特別の指導を與へられんことを神に願つた。即ち彼等は神若し我等の味方ならば誰か我等に敵せんや、(羅馬八ノ世)の聖言を確實に己の胸にいたかつたのである。此の故に彼等は種々研究し又探究した。此の年の標語は「エホバの名は堅き橋の如し。義一き者は之を走り入りて救を得」(箴言十ハノ十)であつた。而して此の一九三三年一月一日発行の「ワツチタワ」誌の記事はその一部で斯う云つた。「今、神エホバを愛する者等の前に展開されある状態は斯うである。此の最大の戦闘は開始さるべく、之は傾て其の最終頂に到達する筈である。

之は悪魔と其の悪一き全軍が、エホバの特別代表者キリスト・イエスと戦ふ大戦である。此の大戦の中には「遺残者」も含まれてゐるが然し之はエホバ御自身の戦である。エホバは「萬軍の神」に在し給ふ。故に「遺残者」はエホバの組織制度の全勝を確信す。悪魔と彼の全軍は、神エホバと正義の側に立つ者を撃ち滅さんと躍起狂奔す。「遺残者」は地上にある神の民の「橋」即ち組織制度の中に在りてエホバを讃頌し、敵よりの襲撃を充分に期待してゐる。若しエホバが其の民の周圍に保護を與へ給はなかつたならば、彼等の勿ちにて滅さる、は一矢の疑ひなき所である。此の大其難の時エホバは其の民に斯く告げ給ふ。「エホバの名は堅き橋の如し。義一き者は之を走り入りて救を得」(箴言十ハノ十)之はエホバが此の特殊の時適用すべく與へられたる一般の方則である。而して之は此の方則の中に歩む者に對して特別の益を與ふ。「義一き者は、神とキリストを信じて、神の律法に喜び進入して服従する者のみの上は與へられる所の資格である。此の方則より

見ると「遺残者」は即ち「義一き者」である。彼等はエホバの聖名を肩す。此の聖名こそ即ち彼等にとつて強き堅固なる橋である。「義一き者は之を走り入りて救を得」。事實に於て義一き者等は此の堅固なる橋の中に急ぎ走り入つた。一九三二年七月廿六日、米國コロンバス市に於ける會議に於て、神の民はエホバより賜はれる、新らしい名の意義を学び知り喜び進んで之を感得し、彼等は即ち永久に堅固なる橋の中に走り入つたのである。神の民は此の會議に於て、エホバの御口を以て定め給ふ、新らしい名しを喜び受けたるのみならず、全地に於ける神の忠信なる民は皆急いで此の「新しき名」を己等の上に適用したのである……

何なるかを確認しなければならぬ。此の事はヨシユアがエリコ城攻略に就て研究してゐた事によつて豫表された。エホバは其の天軍の將校を遣はしてヨシユアを教へ給ふ。エホバは神を信頼する者を常に正導し給ふ。黙想しつ、あつたヨシユアは「眼を舉げて見た。一個の人が劍を抜き持つて少しく離れて立つてゐるのを發見した。ヨシユアは其の人の傍に行つて言つた。「汝は我等を助くるか。將われ等の敵を助くるか」と。ヨシユアは之が敵か味方かを早く知りたかつた。故に率直に此の事を尋ね問ふたのである。エリコの敵の全部は城壁内にあつた。而して其知はは武裝せる此の一人のみが城壁の外にある。之は敵か、味方か。ヨシユアは此の事を知りたかつた。其の人は斯う答へた。「彼言ひけるは、不吉、我はエホバの軍旅の將として今、来れるなり」と。ヨシユア地は俯れ伏して拜し、我が主、何を僕に告げんとし給ふや」と之に言へり」と(ヨシユア記 五章十四節)。

エリコの大軍の將校を遣はして、エリコの包圍と攻路を指揮せしめ給ふことを學び知つた。此の戦は人間の指揮や命令によつて行はれる戦に非ずして、エホバ御自身の戦である。此の時、ヨシユアの前に立つた天軍の將校は靈者のロゴスであつた。此の時靈者ロゴスは人間の形状を以て其の姿を現はしたのである。ロゴスはエホバの特別代表者として今未ラんとするエリコの大戦を指揮し給ふ。此の豫言的戯曲は全く一致して一九三三年五月十五日発行の「ワツタワ」誌は「エホバの豫言者」と題する一文を発表して、モーセによつて豫表された「エホバの豫言者」(使徒行傳三、廿三)は「遺残者」ニ、廿三。申命記十八、五十八)の意義を解明し、キリスト・イエスこそ悪魔の全軍に対してエホバの神軍を進め給ふ大元帥なる事、而して此の豫言(使徒行傳三、廿三)は「遺残者」のみの上に特別に適用されるものなる事、而して「遺残者」は此の「大豫言者」の中に包含する、事、彼等は此の大豫言者キリストに服従して救を得るか、それとも服従せずして滅亡するかの何れかの一事を自ら選択しなけれ

ばならぬ事、而して此の豫言はハルマゲドンの大戦以後には適用されざる事などを始めて明白になした。此処でヨシユアによつて豫表された「遺残者」は、ハルマゲドンの大戦以前に於てキリストに全的に服従する事の絶対的必要性を初めて示し、學び知つたのである。ヨシユアは此の武装せる將校の前に俯伏して其の指揮を仰ぎ求めた事によつて、此の天軍の將校を遣はし給ひしエホバを直ちに認め識つた事を示した。その如くエホバの證者即ち「遺残者」は「記エホバの大豫言者」に關する正しき諒解を與へられると直ぐ神がキリスト・イエスに聲を注いで神軍の大指揮者に任じ給ひし事と、エホバの證者は此の大豫言者キリストに絶対服従しなけれはならぬ事を學び知つて歡喜した。ヨシユアは至上者エホバの最高代表者の前に立つた。ヨシユアをして大豫言者に対する彼等の關係を正解せしむるためにエホバの代表者はヨシユアに斯う告げた。エホバの軍旅の將、ヨシユアに言ひけるは、汝の履を足より脱ぎ去れ。汝が立ち居る處は聖き

なりと。ヨシユア然かなしぬ。(ヨシユア記五章十五節)。

ヨシユアが立つてゐた場所は、ロゴスの眼前なるが故に之は宮の聖所のその如く主の祭司は靴を履いてゐては不可なかつた。モーセは燃ゆる草の上に立つた時、之と同様に「靴を脱げ」と命ぜられた。(出埃及記三、六)祭司長と祭司が幕屋と宮に於て着用すべき服装の制作に關する命令が與へられたる時、靴即ち履物に關しては何も示されてゐないが、此の事は彼等が素足で奉仕した事を示してゐる。故に神の聖前にある者は履物を用ひない事となつてゐるやうである。宮にて神に奉仕するセラ。ピムはその羽を以て己が足を覆ふた。(イザヤ書六、二)此の故にヨシユアがその履物を脱ぎ去つたことは、神の民が、全能の神エホバと其の主キリストの聖前に謙遜して全的に服従する事を意味してゐる。ヨシユアが立つた其の地が地上の他の土地と別になつたものでないことは事實である。然しそれが主の聖前であるといふ理由によつて之は「聖なる

地」であつた。而して其處に立つ事を續けて生命を得んとする者は神に全的に信服をなさなければならぬ。ヨシユアは此の命令を聽いて直ちに服従した。ヨシユア然かなしぬ。(ヨシユア記五章十五節)と。エホバは信服する者は神の聖意を知つて直ちに之に服従せんことを願ふ。此の部分の豫言の成就に於て、神の民は近頃になつて人間の指導者を崇敬讃頌する事の絶対不可なる事を學び知つた。彼等は神の聖言に對して正しき諒解と感受を得始めた。そして己等自身を卑くし、神エホバとキリスト・イエスを讃頌崇敬することを己等に與へられたる特權であり、責務である事を諒解し始めた。之に一致して一九三三年六月及び七月発行の「ワツタワ」誌は「エホバの聖所」と題する一文を発表し、神は地上に在るその「聖所」級の者を認め給ふことを明白にした。斯く豫言と實證が完全に一致し、而して此の事が「ワツタワ」誌を通じて示された事は神が地上に在る其の民を指揮し給ひつゝある事、而して昔から記録されある之等の事

は今日地上に立つ神の民を力附け、勵まし、慰むるために働くものなる事を立証する明白なる證據であつた。人間の力で斯く神の聖言に一致する。實證を全世間的に發生せしめ、然かもその事を前以て豫め發生せし置く事は絶対不可能事である。豫言を成就する出未事の發生せる後、年が経つに従つて其の成就の事實が愈々明らかとなる。之に見えるも人間の力を以てしては豫言に一致せしむるやうに都合よく事件を發生せしむる事の絶対不可能なる事が明白である。神の聖言によつて正しく照らさるる者は、皮骨者がアホバの聖言によつて教導され、ある事案を學び知つて喜ぶ筈である。此の事を悟る「ヨナダブ」は「遺残者」即ちアホバの證者が地上に在る神の特選の民であり、之は羅馬法王教權と其の仲間から斷えず、龍巻を蒙りつゝある事、而して其の理由は彼等が神アホバと其の王キリスト及び神の國に對して全的に忠信なるが故なる事を、知つて深く感受するのである。「ヨナダブ」は「入宗教は、人々を捕ふる筈であり、詐り或行爲であつて

宗教的指導者に追隨する者の全部は、悪魔の民に欺き入れらるるといふ事を、知つてゐる。此の故に之等豫言の解明と發表は密に「遺残者」のみならず又「ヨナダブ」に對しても大なる援助となり、慰めとなるのである。羅馬法王教權と其の要キ仲間、愈々圖に乘つて己等自身を高くし、神アホバの屬すべきものをも之を横領して勝手に所有せんとす。「ヨナダブ」は「入宗教」の指導者は神キリストの代表者に非ずして、之は神と神の國に敵する者であり、此の理由によつて彼等神に忠信なる人々を迫害するのである事を、斯く顯示されたる眞理は地の善意者たち大なる力を興へ、彼等は之を熱心に學ぶ事によつて己が立場の何なるかを知り、神の聖意をなすべく喜び勇んで出で行くのである。彼等は「入宗教」を止め、謙遜を、求むる事の絶対必要なることを知る。故に彼等は「入宗教」に關し、アホバの聖意の何なるかを學び知つて、急ぎ之に服従せんと欲するのである。彼等「ヨナダブ」は「遺残者」の如く、救は人間や

人間の組織制度の中、絶無なる事を、知る。彼等は今日、羅馬法王教權は人々を神アホバより離れせしむるために用ひらるゝある悪魔の民なる事を、知る。彼等は「救はアホバ」にあり、(詩篇三十八)の聖言の意義を正解して之を感受す。生命を得る唯一の道は神アホバとキリストを、知つて、之に無私の服従をなす事である。「ヨナダブ」(十七章三節)。

神アホバが御自身の聖名を高く擧げて之を證明し給ふ時は到未した。神は其の忠信なる證者を用ひて此の事を成し給ふのである。全地諸國はアホバが最高至上の全能者に在ることを知るに至るべし。「全能の神の大なる日」の戦は「ア」や「迫る」。萬軍の神アホバは「ア」、その忠信なる僕と共々に在りて、彼等のために安全なる避難所となり給ふ。アホバは「ア」、遙かの大昔に記録されある豫言的戯曲、模圖、模型の意義を、その忠信者に解明して彼等を力附け給ふ。神の御意の全部より脱して、神の聖言のみを教へ導かれなければならぬ。人間や人間製制度に隨ふ

ことは明白に滅亡である。全能の神の聖言に服従することは生命を意味す。神は之等の服従者に向つて「今、斯く生かす給ふ」と汝等静まりて我の神たるを知れ。」「我は、全地に崇めらるべし」(詩篇四十六、十一)。

エリコに對する攻撃は「今將に開始せしむ」と。此の攻撃戦はヨシユアはイスラエルの全軍を指揮するのである。ヨシユアは此の攻撃がアホバの神命に服して行はれる時々の勝利を得る事を學び知つた。ヨシユアとイスラエル人は、共にアホバの神命を慎重に學び知つて、熱心を以て之に服従しなげればならなかつた。今日、現代の敵は實體的「エリコ」に堅く籠城す。而して之に對する攻撃は、神が地上に在る其の民に與へ給ひし神命に一致して行はなければならぬ。エリコ城の開始の直前はヨシユアがアホバの代表者の長より命令を受けたる如く、其の如く「ア」、地上に在る神の民は「ハルマゲドンの直前は於て神の指定し給ふ道を通じてアホバより神命を受けらるるのである。「エリコ」の敵城は、此の豫言的戯曲のそれと、又之の成就に於ける實體的のそれ

389
197

と共に攻撃せらる。人々よ、其の結末を見よ。
(ついで。一九三九年三月十五日)

(不許復製)

昭和十四年四月二十日印刷
昭和十四年四月廿四日發行
非賣品
(三百五十部限定版)

著作
印刷人

東京市杉並区松陰四ノ五八

明石順三

發行所

東京市杉並区松陰四ノ五八

燈臺社

印刷所

東京市杉並区松陰四ノ五八

燈臺社印刷部

終

